

脳脊髄液の機能と異常 そして脳脊髄液漏出症



講師 高橋 浩一 先生

順和会 山王病院(東京都) 脳神経外科部長

研修会のポイント

- 髄液の機能、産生と吸収実態について、組織学的・生化学的解析を含む医学界での最新の現状
- 本症と診断するうえでの必要な知識、及び類似疾患との鑑別するポイント
- 治療にあたって、特に注意していること
- ブラッドパッチ施術法の技術解説及びそのポイント
- 治癒率を上げるコツ(上手・下手の違い)
- 予後の治療上のポイント
- 保険適用までの歴史と実態、全国及び群馬県内の本症に関する実態

裏面に講師から皆様へのメッセージと講師のプロフィールの記載があります。是非ご覧ください。

日時 2024年12月22日(日)

受付 13時～ 開始 13時30分(終了15時30分)

会場 高崎市総合福祉センター 2階 たまごホール

(高崎市末広町115-1) *無料駐車場(280台収容)あり

会場マップ→
高崎駅西口
からバス便あり



対象者 医師、看護師(准看護師)、保健師、助産師、医療ソーシャルワーカー等、医療従事者

参加費 無料

主催 群馬県脳脊髄液減少症患者会

後援 群馬県、前橋市、高崎市、群馬県医師会、群馬県看護協会、群馬県ソーシャルワーカー連盟(群馬県社会福祉士会
群馬県精神保健福祉士会、群馬県医療ソーシャルワーカー協会)、上毛新聞社、朝日新聞社前橋総局、毎日新聞
前橋支局、読売新聞前橋支局、群馬テレビ株式会社

参加申込 右のQRコードから。締め切り12/16(月)

参加申込→



問い合わせ先 xiaoyesitoshizi73@gmail.com (主催者)

* 本研修会は、日本医師会生涯教育単位の申請対象です(1.5単位:カリキュラムコード30頭痛)

* 講演中の録音・録画をお断りいたします



講師から皆様へのメッセージ

脳脊髄液は、第四脳室正中の出口、マジャンディー孔の発見者であるマジャンディーにより、1825年に髄液 (cerebrospinal fluid) と命名されました。1910年代にウィードが、髄液が、くも膜顆粒を介して静脈に回収される概念を報告して以来、現在でも、髄液静脈洞吸収説が教科書的知見となっています。

しかし、髄液静脈洞吸収説に対して、哺乳動物では、脳くも膜顆粒が未発達であるなど多くの矛盾点が指摘されています。また髄膜炎による髄液中のリンパ球増多や、多発性硬化症などの神経免疫疾患の存在により、近年、発生学的に唯一リンパ系が欠如する脳脊髄実質においてリンパ系髄液吸収路の存在が注目されています。

臨床的には、髄液が減少する脳脊髄液漏出症は、頭痛をはじめとした多彩な症状出現を特徴としています。本症に対してブラッドパッチという自分の血液で髄液の漏出を止める治療が有効です。本治療により、頭痛のみならず、視覚、聴覚、高次機能障害、運動障害、味覚などが改善する症例が散見されます。しかし、治療効果機序に関しては不明な点が残されています。

上記の背景を受けて、福島県立医科大学生化学、大分大学解剖学、埼玉医科大学神経内科学との共同研究により髄液の産生機序や、脊髄における髄液吸収、自律神経との関連など様々な知見が得られています。これら研究結果に加えて脳脊髄液漏出症症例を提示し、髄液の機能について皆様と考えていきたいと思っています。

プロフィール

略歴

- 1990年 東京慈恵会医科大学卒業、脳神経外科研修
- 1992年 東京慈恵会医科大学脳神経外科入局
- 2000年 ロサンゼルス小児病院/南カリフォルニア大学留学
- 2003年 東京慈恵会医科大学小児脳神経外科診療医長
- 2006年 順和会 山王病院脳神経外科
- 2010年 順和会 山王病院脳神経外科副部長
- 2018年 順和会 山王病院脳神経外科部長
- 2023年12月 浙江大学 客員教授

資格・学位

医学博士

日本脳神経外科学会専門医・評議員

日本小児神経外科学会会員

日本プロボクシングコミッションドクター

日本脳脊髄液漏出症学会常務理事

日本スティミュレーションセラピー学会理事

AMED (国立研究開発法人日本医療研究開発機構) 脳脊髄液減少症の疫学研究及び客観的診断法に資する研究: 分担研究員

受賞

2000年 川淵賞 (小児脳神経外科学会年間最優秀論文)

著書

「つらい介護にさようなら メンタルトレーニングで心ラクラク」(出版文化社) など